

臨床検査医学（中央検査部）

1. 研修責任者 古田 眞智

臨床検査の選別、進め方、結果の解釈等について学び
生理学検査(超音波検査)の手技を習得する

2. 一般目標

- (1) 臨床検査(検体検査)がいかに行われているかを知り、それらを効果的に選別し指示することができ、それらの結果を解釈できる。
- (2) 基本的な検査は、それらの結果を解釈できる。
- (3) 生理学検査として超音波検査(特に腹部)について、その技術を習得する。

3. 行動目標

経験すべき項目

以下の検査について自ら実施し、それらの結果を解釈できる。

- ・ 一般検尿
- ・ 便検査(潜血、虫卵)
- ・ 血算(白血球分画)
- ・ 心電図
- ・ 血液化学検査(簡易検査)
- ・ 細菌学検査(グラム染色)
- ・ 肺機能検査
- ・ 超音波検査、脳波検査
- ・ 筋電図検査

4. 方略

(1)指導体制

指導医1～2名で、1～2名の研修医を配属する。研修医は主に生理機能検査について指導を受ける。また、検査室で行われている検査について研修する。

(2)研修記録

患者を受け持つのではなく、検査について取得することが目的であるため、診療記録の記載はない。検査所見を記載する。

(3)各種オーダー実施

検査に関するオーダーの方法について学ぶ。

(4)各種手技実施

主に超音波検査(腹部・甲状腺)に関する手技を取得する。

5. 週間スケジュール

	午前	午後
月	超音波検査（実地）	超音波検査（見学）
火	超音波検査（見学）	超音波検査（見学）
水	超音波検査（実地）	超音波検査（実地）
木	超音波検査（見学）	超音波検査（見学）
金	超音波検査（実地）	超音波検査（実施）

超音波検査の時間以外に中央検査部の検査見学が可能（要相談）

6. 評価方法

PG-EPOC を用い評価する。

知識および技能評価は、指導医のもとで実施し、習得状況について評価を受ける。

また、特に習得を目指す超音波検査は、対患者で行う手技であるため、医師として相応しい態度の習得状況の評価する。